



八月の浦

UCHIURA
in
AUGUST

KAZAHANA CHIRUWO's bisaid Label
SUNSHINE!! YARAKASHI BOOK



UCHIURA in AUGUST





八月 内の 浦

UCHIURA
in
AUGUST

KAZAHANA CHIRUWO's bisaid Label
SUNSHINE!! YARAKASHI BOOK





八月の
内浦

UCHIURA
in
AUGUST

KAZAHANA CHIRUWO's bisaid Label
SUNSHINE!! YARAKASHI BOOK



ふう…暑い暑い
こんな日は水着で
泳ぎた

ハア
ハア
ハア

フシラフシラ
フシラフシラ

八月の内浦 風華チルヲ



何して…

あれ?

梨子ちゃん
ひとり?

ハア
ハア
ハア

ハッ…!?



水着
水着!!
水着!!
ちゃんの

千歌ちゃんの
水着ナイシヨで
着ちゃった…!!

千歌ちゃんの
水着い
つ!!

ガッ

ちよつちよちよ!!
梨子ちゃん
部室で
何やってるの!?

それって
千歌ちゃんの
水着だよ...ね?

ハッ...!?
曜ちゃん!!

これはその...
えっと...

ふーっ
今日は
暑いなー

でも
東京の暑さより
内浦の暑さは
さわやかだよね

え?

ほら
内浦って言ったなら
やっぱり
海でしょっ?

せつかく
海辺の街だもの
水着着なきゃ
もったいないよね

えと...
その水着

うふふ
千歌ちゃんの水着
ちよつと私より
お胸が大きいかな

梨子ちゃん!!
その水着
いつたいたいのさ!!

盗んだ

えっと...

あああ
あああ
あああ!!

だって
私が内浦に来て
初めての夏だし

こういうのも
いいかなあつて

よくないよ!!
自分の水着
着ようよ!!

千歌ちゃん
私のお家の前
海水浴場
でしょう?

え?
ああ...うん
そうだけど

当然
千歌ちゃんも
泳いだりする
じゃない?

それは
泳ぐと思うけど

千歌ちゃんの
入った海水

飲み放題
なんだろうなあ
とか

わーい

飲み放題
かは
ともかく

海に入るなら
自分の水着で
いいよね!?

そして砂浜に
人知れず埋まって
千歌ちゃんに
踏まれるの

壁ドンより
ドキドキするよね
砂ギユムって

うわっ
何か踏んだ?

砂ギユムは
ともかく
自分の水着で
いいよね!?

曜ちゃんは
分かって
ないよ

私が
千歌ちゃんの
水着をこっそり
着るのは

ただの趣味じゃ
ないんだよ?

えっと…
え?

曜ちゃんも
飛び込みするから
分かるでしょ?

水着のあの
フィット感
一体感
水着に包まれている
感じだよ

ううっ

締まるっ

わわっ…
分かるけどっ
何この
イメージ!!

特に
ワンピース
タイプ!!

わわ

ん

つまり
千歌ちゃんの
水着を
着るということは

千歌ちゃんに
包まれているという
ことになると思うの

まさか…

ま…

チカつちのチチつちが

ぎゅーして
しちやうよー！

あ

当たってしまっ！！

うわうわ

干歌ちゃん
アツい…
アツいよお…

ずるい！！
ずるいよ
梨子ちゃん！！

ハアハア
ハアハア

私なんて
私なんて
！！



私なんて
千歌ちゃんの食べた
みかんの皮を

そつと持ち帰って
冷凍保存して
永遠に残そうとか
くらいしか
できないのに!!

痛つ…!!
肩痛つ…!!

曜ちゃんに
予想以上の
重い情念を
感じる…!!

安心して
曜ちゃん
大丈夫だよ

本当はこれも
私だけで
楽しむつもり
だったのだけど

ええっ?
どういうこと

千歌ちゃん
アイテム
欲しくない?

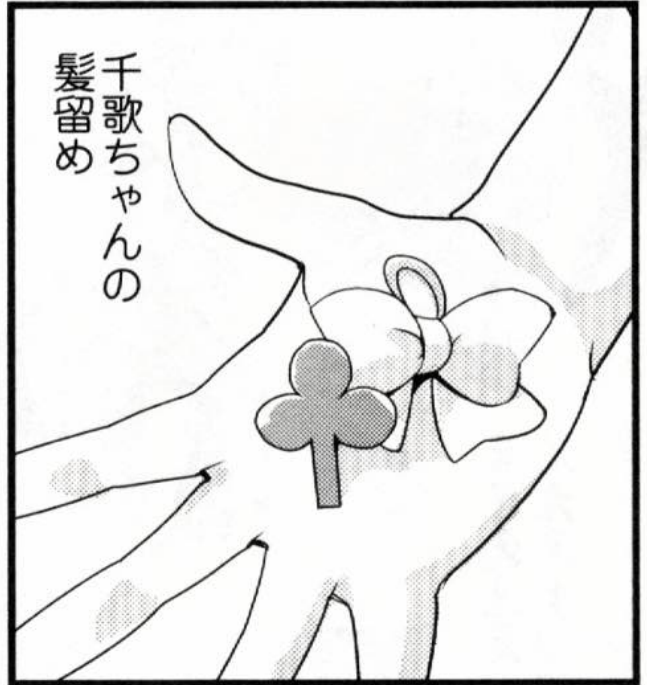
千歌ちゃん
アイテム…!?

千歌ちゃん
アイテム…!!

やめる?
曜ちゃん
やめる?

や…
やめない…!!

梨子ちゃん
盗みすぎ——
ツ!!



フフフ：
煉獄の業火に
焼き尽くされ
そうな日差し：

有り体に言うと
あつーい…
堕天日和ね…

ギョーッ

やつ…やめて
梨子ちゃん!!

千歌ちゃん!!
千歌ちゃん!!

千歌ちゃん!!!
千歌ちゃん!!!

曜だから!!
ほら
ヨーンローって
言ってみて!!

ちゅーしょー!!

あめもこ!!

ギル
テイキス
!!

そんな
練習だからねとか言って
本気になっちゃった
同人誌のような
展開ではダメすら

痴情の
もつれには
仏罰が下るぞ

ハツ…!?

ちゅ

お寺で
パン食べてそうな
未来系のその声は
!?



え…
えっと…

そ…
その…

いけない
このままじゃ
盗みどころか

私たちが
千歌ちゃんのこと
大好きなのが
バレちゃおう!!

なんとかかしくちや
なんとかか
そうだ!!

こ…これはその
千歌ちゃんの
コスプレ
かな?

そ…
そうそう!!
奇跡だよーっ!!

あはは…
なんちゃって?

そっかあ
私のコスプレかあ
じゃあ
練習だね!!
せーの!!

かーんかーん
みーかん!!

かーんかーん
みーかん…

千歌ちゃんが
大らかなおかげで
なんとか
ごまかせたすら

このあと
そっと
返しておいた
そうすら

「がんばルビィ」の

エクスタシー

—黒澤ルビィ

ばかいぬ

「ライブとか、やるんですか!？」

何をされるでもないのに友達の後ろに隠れてしまう女の子が、こう言いながら嬉々として顔を出す。黒澤ルビィの「お披露目」は、この言葉から始まりました。

好きなものにはつい反応してしまうという経験、皆さんにもおありだと思えます。雑踏の中から「ラブ」とか「ライブ」とか聞こえた気がして、つい振り向いてしまったことがあるでしょう。

ルビィも同じです。およそ「スクールアイドル」にまつわるものは、まるで動物のように反応してしまふ。それくらいスクールアイドルが好き。でも、相手から自分に対するレスポンスが返ってくると、サッと隠れてしまふ。

好きには抗えないけど、どうも他人を怖がるフシがある。なのにルビィの中には「スクールアイドルが好き、関わりたい」という思いがあつて、そのジレンマに自分自身もどうしたらいいのか分からなくなってしまう。すると、相手もルビィのちぐはぐな反応に困って距離を置いてしまふ。そんなことが、彼女の周りでは少なくなかったのではないのでしょうか。

なぜ、相手から反応が返ってくると隠れてしまふのか。それは、「恥ずかしい」という感覚です。

え、それだけ?

と思うかもしれませんが、しかし、「恥ずかしい」という感覚はなか

なかに厄介なのです。なぜスクールアイドルが好きな自分が「恥ずかしい」のかというと、スクールアイドルが好きなのに自信がないから。なぜ他人とコミュニケーションを取る機会を避けるのかというと、やっぱり自分に自信がないから。要は、自己評価が低いのですね。スクールアイドルになる前は、国木田花丸の後ろについていく姿がよく見られました。自分に自信がないぶん、彼女は誰かについていく。誰かの考えに合わせて、安寧を得る。

その最たるケースが「黒澤ダイヤのスクールアイドル嫌い」に乗ったことです。スクールアイドルが好きで、L'sの真似までしていた仲良し姉妹でしたが、姉のダイヤがあるきっかけでスクールアイドルを避けるようになると、妹のルビィも「お姉ちゃんが見たくないっていうもの、好きでいられないよ」と、大好きなはずのスクールアイドルから遠ざかろうとします。

それは確かに楽で無難な道のり。波風を立てずに済むし、何よりスクールアイドルに向いてない自分||恥ずかしい自分と向き合わなくていい。ルビィにとって一番の難関を、回避することはできます。

しかし、難関を回避はしても克服はしていない。それを問題視した花丸が、自らを囿にした作戦で「胸の扉」を開くことに成功したわけですが、そのお話はまた別のところで。スクールアイドルになって以来、ルビィが隠れなくなったことに注目してみてください。

さて、ここで話したいのは、「恥ずかしい」感覚ゆえに無難な道のりを選ぶという行動の中に、ルビィのポリシーが感じ取れるのではないか、ということ。です。

ルビィと花丸が海辺で言葉を交わした際、ルビィは「じゃあルビィも平気」と発言しています。花丸がスクールアイドルをやらないので

あれば、自分もやらない。親友が何かをガマンしているならば、それに付き合う。

これは惰性や怠惰などではありません。意識しているのか定かではありませんが、「一人の人を、独りにしない」という、彼女のポリシーではないでしょうか。

このポリシーがあるから、姉のことも独りにしない。ダイヤの中にある問題をダイヤが解決するまで、ルビィは姉と一緒にスクールアイドルを「ガマン」する腹積もりだったのかもしれませんが。

これは見る者の想像以上に、彼女の中にある大きなこだわりです。では、そのこだわりはどこから来たのか？ 断定することはできませんが、あれだけスクールアイドル、そしてμ'sが好きなのです。このレジェンドたちの「ストーリー」から生まれたパーソナリティと仮説を立ててみましょう。

μ'sも、誰かを独りにすることはなかった。他者へ積極的に介入する人が多く、特に一年生がそうでした。小泉花陽をスクールアイドル部に入部させようとした星空凛然り、東條希のやりたいことを聞き出そうとした西木野真姫然り。

この時代に、μ'sが自分たちのことをどれだけ表向きに語っているかわかりませんが、屋上で練習していたことも知られていますし、スクールアイドルになったきっかけくらいは公に話しているかもしれません。コンプレックスを抱えながらも仲間の協力を得てスクールアイドルをやり遂げた一年生。ルビィなら、彼女たちにあこがれを抱くでしょう。

そんな中で生まれた「人を独りにしない」。ポリシーは、花丸をして「とても優しく、とても思いやりがある女の子と言わしめました。ただ、それは同時に「もったいない」一面にもなっていた。花丸は右

記の言葉の後に「でも気にしすぎる」と続けています。

恥ずかしい思いをしないために無難なほうを選ぶ。でもそれは、常に誰かの隣にいられるルビィの長所であり、強いポリシーでもある。でもでも、それゆえに自分の殻を破ることができず、近しい他者から見るともったいなく思える。「人間の長所と短所は表裏一体」を地で行く黒澤ルビィという女の子は、実に人間味のある15歳なのです。でもどうせなら、短所をうまく隠して長所を見せたい。そんなぜいたくに感じられる「進化」を、ルビィはやってみせました。

「ちょっと息が切れちゃって。先行っててください」。長い階段でのランニング中、遅れた花丸を見たルビィが先行する渡辺曜にこう伝えます。

花丸の尊厳を守りつつ、先輩に余計な心配をかけない絶妙なバランス感覚。しかし裏を返せば「無難」な選択です。その無難な選択をしてしまうパーソナリティが、後に続く「花丸ちゃん、一緒に行こう」という言葉に表れてしまった。

無難な選択。それは、「全力を出さない」ということでもあります。全力を出すって、実は訓練が必要です。これで十分だなと思うところまで止まってしまうと、どんどん全力が出せなくなっていく。出す感覚がなくなるんですね。

そして全力を出すためには、ある種の思い切りとエゴがなくてははいけない。しかし、ルビィにはエゴがない。「人を独りにしない」から、自身より他者を優先して付き合う。

自己評価が低いゆえに、他人に合わせることでアイデンティティを確立する。だから、自分の気持ちを大切にするよりも先に、人に合わせようとしてしまいます。それは「楽」だけど、「楽しい」ことでは



ありません。すばらしい夢も、キラキラしたあこがれも、胸に閉じ込めてしまうからです。

ルビィのスクールアイドルが大好きだという気持ちや、ともすれば誰よりも大きく強いスクールアイドルへの思いを、ずっと隣にいた花丸は知っていました。だから、解き放ちたかった。「自分を置いていい」と言えるティーン・エイジャーは、なかなかいません。互いを思う心があれば、例え置いていったとしても独りにはならないということ、ルビィは花丸に教えられたのです。だから、全力を出せるようになった。向いている、向いていないという他者の目線ではなく、好きだからという自分自身の目線を大切にできるようになった。

全力を出せるようになると、不思議と自分の気持ちを表現するようになります。自分をまっすぐ見つめて意志を表明する妹を見たダイヤは、驚いてもいましたが、安堵もしたのではないのでしょうか。自分の巻き添えを食う形で、スクールアイドルを思い切り楽しめなくなっていたルビィが、自分の呪縛から逃れた。だから「良かったね、やっと希望が叶って」（小原鞠莉）となるのです。

さて、全力を出し、気持ちを表現できるようになったルビィは、もう一つの思いを露わにします。それは「人を独りにしないこと」。すなわち、花丸と一緒にスクールアイドルをやることです。

「ルビィに気を使って、スクールアイドルをやってるんじゃないかって。ルビィのために無理してるんじゃないかって、心配だったから」とは、実にルビィらしい言葉です。何せ、今までの自分がそうだったのですから。だからこそ、その裏に隠された真意が分かる。花丸がうれしそうだったこと、自分と同じくらいスクールアイドルが好きだということ。

だから、ルビィは花丸を独りにしない。それも、全力で。

ポリシーは、何をやるかより、何をしないかに表れるものです。ルビィの場合は、仲間を独りにしないこと。自分を解き放ち、次の道へ進ませてくれた花丸を、次の道に進んだからといって独りにほしくない。全力で一緒にいる。その思いは、見事花丸の心を動かしました。

人に合わせるのではなく、自分がやりたいことや夢、あこがれを大事にしなが、大切な人と一緒にいる。うまく短所を隠し、長所を前面に出せるようになったルビィは、その名前のように輝く女の子へと成長しました。

アニメでは一年生3人が立て続けにAqoursへと加入しました。先代もそうでしたが、「一年生」というカテゴリーの中にいるメンバーは、同じようなコンプレックスを抱えています。

ルビィ、花丸、そして津島善子は、「自分は向いていない」「一般的な評価軸が許さない」という、一般論にあてがった考えを持っていました。特にルビィの「スクールアイドルにあこがれる気持ち」と善子の「墮天使が今でも好き」はそっくりです。

彼女たちの思いを押しえつけていたのは、「地味で普通」になるための評価。ハブられないため、おかしいと思われないようにするため。一種の社会性であり、処世術でもあります。それは何度も書いてるように「無難」な生き方です。

でも、この評価から脱せられると、高海千歌の言う「みんな色々な性がある」人間になる。リーダーがみんなのことを少しづつ知って「全然地味じゃない」「それぞれ特徴があって魅力的」と思うのは、「好き」があふれ出したからです。何を選び、何をしないかで、その人の輪郭は浮かび上がってきます。それはスクールアイドルとして輝

くために一番大事なもの。すなわち、自分が一番好きな姿です。

全力を出すことを覚えたルビィがとても魅力的に映ったのは、皆さんが体感したとおり。それは彼女が「全力で夢を追いかけろ」という、自分の一番好きな姿を見せてくれたからです。そう、僕らが感じたのは「がんばルビィのエクスタシー」なのです。

了





コンニチワワン!! 風華チルヲです!
この度は拙作をお求めいただきありがとうございました!

サンシャインあふるるこの季節にピッタリの
ぴっかぴかな本を作ろうと思ったのですが
どうしてだかこうなりました!

夏なのでサーブス回にしようと水着を描いたまではよかったと思うのですが、
そこから先がどうにもこうにもやらかしでしたね。
こんな内容ですが、ご笑覧いただけましたならこれ幸い!
たまに愛情を疑われるのですが、多分行き過ぎた愛情だと思いますw

次もライブと二期を楽しみに、やらかしパワーを貯めておこうと思います!

今回もゲストにはばかいぬさんのルビィ考察と、
YUYさんの沼津ロケの自作ねんどろ写真をいただきました!
読み応え見応えたっぷり。ありがとうございます!

ではまたどこかでお会いしましょう!
ありがとうございました!

風華チルヲ 拝

八月の内浦

UCHIURA
in
AUGUST
KAZAMANA CHIRUWO's bisaid Label
SUNSHINE!! YARAKASHI BOOK

2017年8月13日初版発行

美彩'd / 風華チルヲ

Twitter chiruwo3
<http://chiruwo.net/>

■GUEST

ばかいぬ
Twitter bakainu
<http://bakainu.net/>

YUY
Twitter YUY0083

■印刷

アクセス出版株式会社
<http://axis-publication.com/>

※この冊子は個人の趣味で作られたものです。
作品・版權元とは一切関係ございません。



八月 内の 浦

UCHIURA
in
AUGUST

KAZAHANA CHIRUWO's bisaid Label
SUNSHINE!! YARAKASHI BOOK